

神権の祝福の ちから 力



ラッセル・M・ネルソン大管長

何年も前のこと、わたしはメキシコ
の小さな町で開かれた医師の会合
に出席しました。ある夜、医師の一人が
突然ひどく体調をくずしました。

その場にはたくさんの医師がいまし

た。けれど、病気になる男性を助ける
のに必要な道具を持っている人はだれ
もいませんでした。いちばん近い病院は
100 マイル（160 キロ）以上はなれて
います。夜なので飛行機も飛ばません。
病気の医師は死んでしまうかもしれない
と、わたしたちは思いました。どうすれ
ばよいのでしょうか。

病気の医師はささやくような声で、神
権の祝福を求めました。わたしは彼の頭
に手を置きました。せいいいがわたし
に、病気の医師は良くなるとつげるのを
感じました。医師は生きて、無事自分の
家へもどるのです。わたしは医師にこの

祝福を、主の御名によってさすけました。

翌朝、医師の体調はずっと良くなって
いました。数日後には帰宅することが
できました。わたしたちはこの最もおど
ろくような祝福に対して、主に感謝しま
した。

わたしたちが学んだ教訓はシンプルで
す。「心をつくして主に信頼せよ、自分
の知識にたよってはならない。」（箴言
3:5）このことを、わたしたちは身
を持って経験しました。これが真実である
ことがわかりました。

また、神が管理しておられるというこ
とも真実です。すべての祝福が、わたし
たちの望むような形でこたえられるわ
けではありません。わたしたちはただ、
神を信じる信仰をまし加えればよいの
です。●

このお話は、“Neither Trust in the Arm of
Flesh”（ブリガム・ヤング大学卒業式での話、
2009年4月23日）speeches.byu.edu
をもとに書かれました。

